

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第2号）」について送付しますので、業務の参考にしてください。

令和8年産麦作情報（第2号）

1. 気象の概要

- ◆平均気温…12月は平年よりやや高く推移し、特に4～5半旬は平年に比べ $+3^{\circ}\text{C}$ 以上高く推移した。12月6半旬～1月1半旬にかけては、やや冷え込んだが、それ以降は平年よりやや高く推移している。
- ◆降水量は…12月は、19～21日に計23mm、24～25日に計10mmの降雨があったが、それ以降、1月3半旬まで少なく推移している。
- ◆日照時間…12月～1月3半旬の日照時間は、平年より多照で推移している（平年比123%）

2. 管内麦類の生育状況

▼佐城管内の調査結果

場所	品種名	播種日	苗立ち数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	備考
鍋島	シロガネコムギ	11/19 (11/24)	188 (124)	15.0 (10.1)	503 (241)	4.9 (3.4)	・播種期は平年並み
北川副	さちかおり	11/21 (11/24)	137 (160)	13.6 (9.7)	475 (353)	5.6 (4.1)	・播種期は平年並み
川副	はるか二条	11/25 (12/10)	134 (145)	12.2 (8.1)	437 (163)	4.7 (1.2)	・播種期は平年並み

注 1) () 記載は昨年度の生育状況。圃場、播種日など条件が異なるため、あくまでも参考程度。

【概況】

- ・11月以降、降雨が少なく好天が続いたため圃場準備や播種作業は順調に進んだ。
- ・小麦の播種は、11月中旬～下旬を中心に行われ、11月中旬に播種された圃場では現在、第4～第6葉を迎えており、分けつの抽出も旺盛となっている。(写真1,2)
- ・11月下旬～12月上旬に播種された大麦は、現在、第2～第5葉を迎えており(写真3,4)、分けつも抽出しているが、播種が遅れた圃場では、生育が遅れている。
- ・カモによる食害が各地で散見され、特に大きな河川やクリーク付近の圃場で被害が見られている。

◎農試作況試験における麦類の生育(1月20日調査)

品種	播種期 (月/日)	年次	出芽期 (月/日)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉齢 (L)	概況 (平年値または平均値と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	12/2	13.7	575	4.7	[気象] 11月20日～1月19日まで ◆平均気温…1.0℃高い 12月4～5半旬は3.7℃高い ◆日照時間…長い(平年比131%) ◆降水量…少ない(平年比48%) [生育] ◆出芽期 「シロガネコムギ」は11/20播種で1日遅く、12/10播種で3日早い。 大麦は、12/1播種で平年並み～1日遅く、12/10播種で6日早い。 ◆草丈 「シロガネコムギ」は低く、「サチホゴールデン」、「はるか二条」は高い。 ◆莖数 全品種、全作期で多い。 ◆葉齢 11/20播種「シロガネコムギ」はやや少ない、12/10播種「シロガネコムギ」、「サチホゴールデン」、「はるか二条」は多い。
		平年	12/1	14.7	469	4.8	
		平年比(差)	+1	93	123	-0.1	
	12/10	本年	12/23	8.8	263	3.0	
		平年	12/26	9.6	173	2.5	
		平年比(差)	-3	92	152	+0.5	
サチホゴールデン	12/1	本年	12/20	10.6	423	3.7	
		5ヶ年平均	12/20	9.4	317	3.0	
		平年比(差)	±0	113	133	+0.7	
	12/10	本年	12/24	9.3	315	2.8	
		平年	12/30	8.7	207	2.2	
		平年比(差)	-6	107	152	+0.6	
はるか二条	12/1	本年	12/20	10.3	419	3.4	
		5ヶ年平均	12/19	8.5	333	2.8	
		平年比(差)	+1	121	126	+0.6	
	12/10	本年	12/24	9.0	317	2.6	
		平年	12/30	8.1	225	1.9	
		平年比(差)	-6	111	141	+0.7	
留意点	◆追肥Ⅰは生育状況(葉齢3～4葉期頃)をみながら適切に行う。 ◆分けつの発生を促進するため、3葉期以降に麦踏みを実施する。ただし、圃場の土壌水分が高い場合、土が締まり湿害を助長するため、必ず乾いた状態で行う。 ◆播種後に除草剤が散布できていない圃場や、除草剤を散布していても雑草が散見される圃場では、早めに茎葉処理剤を施用する。なお、麦踏み前後の除草剤散布は、葉害を生じることがあるので避けること。 ◆5葉期になったら、雑草防除と排水対策のために土入れを行う。						

注意事項

- 1)「シロガネコムギ」: 苗立数は11/20播種が120本/㎡、12/10播種が150本/㎡。施肥量(基肥-追肥Ⅰ-追肥Ⅱ)は窒素成分(kg/10a)で5.5-4.5-4.0。平年値は過去7ヶ年の内、収量が最高年と最低年の値を除いた5ヶ年分の平均。
- 2)「サチホゴールデン」: 苗立数は150本/㎡。施肥量は6.0-4.0-2.0。平年値は12/1播種が試験を開始したR3年産から5ヶ年分の平均、12/10播種は過去7ヶ年の内、収量が最高年と最低年の値を除いた5ヶ年分の平均。
- 3)「はるか二条」: 苗立数は150本/㎡。施肥量は6.0-4.0-4.0。平年値は12/1播種が試験を開始したR3年産から5ヶ年分の平均、12/10播種は過去7ヶ年の内、収量が最高年と最低年の値を除いた5ヶ年分の平均。

3. 今後の管理

1) 施肥

○追肥(本葉3～4葉期頃)

- ・追肥は生育の状況をみながら、葉齢3～4葉期頃に施用する。
- ・晩播した圃場で追肥施用分も併せて元肥に重点施肥した圃場では追肥を施用しない。
- ・土壌が乾かず、散粒機や動散等で全面散布を行う際は、施用量を1～2割増やす。
- ・追肥の効果を高めるためには追肥後の土入れ(5葉期以降)が有効である。

○穂肥

- ・穂肥は、早く施用しすぎると茎葉が繁茂し、後半の肥切れにつながることから、施用時期は極端に早めないほうが好ましい。
 - ・11月中旬～下旬播種の小麦は、早くても2月中下旬頃から施用する。
- ※茎立期（図1の時期）を迎えた圃場では、麦踏みを行いながらの施肥は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。
- ・肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うと効果的である。

2) 麦踏み（3葉期以降）

- ・麦は畑作物であり、水分も必要であるが、過剰であれば生育阻害の要因となり、麦踏み・土入れ等、肥培管理を徹底するためにも、圃場が乾燥していることが求められる。
- ・土壌水分が高い時に麦踏みを行うと土が締まり、湿害を助長し排水性が悪くなるので、圃場条件が良いときに3～4回程度実施する。
- ・茎立期を迎えた圃場では、茎折れによる穂数の減少や株元のなびきで、倒伏に対する抵抗力が弱まるため実施しない。
- ・麦踏みの最終時期は節間伸長開始期～茎立期前までである。
（図1参照：節間長2cm・草丈25cm程度）

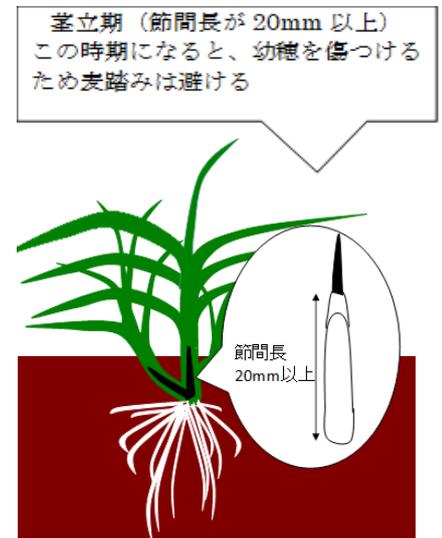


図1.茎立の模式図

【麦踏みの効果】

- ① 耐寒性向上 ②根量増加 ③短稈多分げつ型への誘導 ④早立ち防止で凍霜害回避

3) 土入れ（5葉期以降）

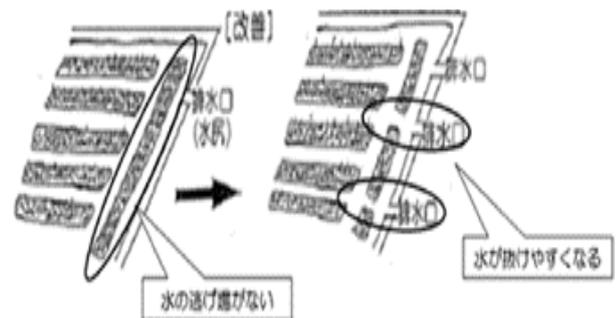
- ・土壌水分が高いときに土入れを行うと、土塊が大きく麦が埋まり土から出てこなくなる。
 - ・雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に土入れを実施する。
 - ・分げつ初期に土入れ量が多いと、分げつを抑制することがあるため、生育初期は少なめに、生育が進むにつれて土入れの量を増していく。
 - ・播種量が多く苗立ち数が多い圃場では、例年より土入れを1～2回増やして過剰分げつを抑制する。
- ※過剰分げつは、細莖化を招き倒伏に弱くなる。

【土入れの効果】

- ① 防寒 ②保肥力増大 ③倒伏防止 ④無効分げつ制御 ⑤雑草防除 ⑥排水促進

4) 排水対策

- ・排水対策は、分げつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- ・土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。
→特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。（写真5）
- ・近年は温暖化の影響で出穂期前後から大雨が降ることが多い。水が溜まったら排水溝に逃がす作業を必ず実施する。



5) 鳥獣害対策

○カモによる食害

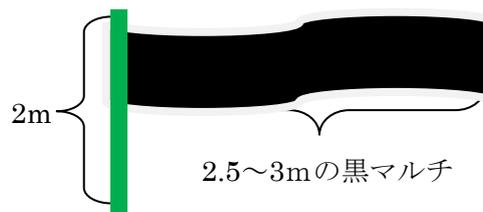
- ・川沿い(嘉瀬川、筑後川、クリーク等)の麦においてカモによる食害が毎年確認されており、本年も被害が懸念される。(写真6)
- ・被害が小さい場合、補償作用により減収も限定的だが、時期が遅く被害が大きい場合は、減収につながる恐れがある。

(症状)

- ・麦の地際部まで草刈り機で払ったように葉が切れている。
- ・周辺に鳥の糞が落ちている。

(対策)

- ・カモ害の対策として、「のぼり」や「テグス」などの方法がある。「のぼり」は、マルチ支柱の高さが短かかったり、10aあたりの「のぼり」の本数が少ないと効果が低い。
- ・水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。
- ・2.5~3mの黒色のマルチを2mの支柱につるした「のぼり」を10aあたり5本均等に設置する。
(費用は、「のぼり」1本あたり約420円)



6) 雑草対策

- ・同一除草剤の連用により除草剤抵抗性雑草の発生が報告されている。これまでに同一の除草剤を連用した圃場など、除草剤散布後も雑草の取りこぼしが目立った圃場では使用する除草剤の変更を検討する。
- ・生育期除草剤は、草種や使用時期によって効果に差があるため、優先している雑草の種類に応じ、処理時期を逸しないよう対処する。(下表参照)
- ・【注意】
 - ・麦踏前後の除草剤散布は薬害を助長するため避ける。
 - ・除草剤散布後、すぐに土入れを行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

▼除草剤使用基準

生育期処理						
バサグラン 液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	100~ 200ml	70~ 100L	雑草3~6葉期 小麦:収穫45日前まで 大麦:収穫90日前まで	1回 以内	・ミチヤナギ、カスノコグサ等への効果は劣る
エコパート フロアブル ※1	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には 効果がない	50~ 100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2~4葉期) (ヤエムグラ2~6節期) ただし収穫45日前まで	2回 以内	・薬害が出やすい ・ヤエムグラ優先圃場で使用
ハーモニー 75DF	イネ科雑草 ・スズメノテッポウ ・カスノコグサ 広葉雑草 ・ミチヤナギ ・タデ類 ・キツネノボタン ・ヤエムグラ ・ナズナ ・ハコバ	5~ 10g	100L	は種後~節間伸長前 (スズメノテッポウ5葉期まで) (カスノコグサ1~3葉期まで) ※小麦のみ は種後~穂ばらみ期 まで 但し収穫45日前まで	1回 以内	・カスノコグサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する ・ヤエムグラ、カスノコグサ等への効果は劣る

※1 以下の場合、薬害が生じることがあるので留意する。

- ・重複散布は避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける。

令和8年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値(佐賀)

佐城農業振興センター

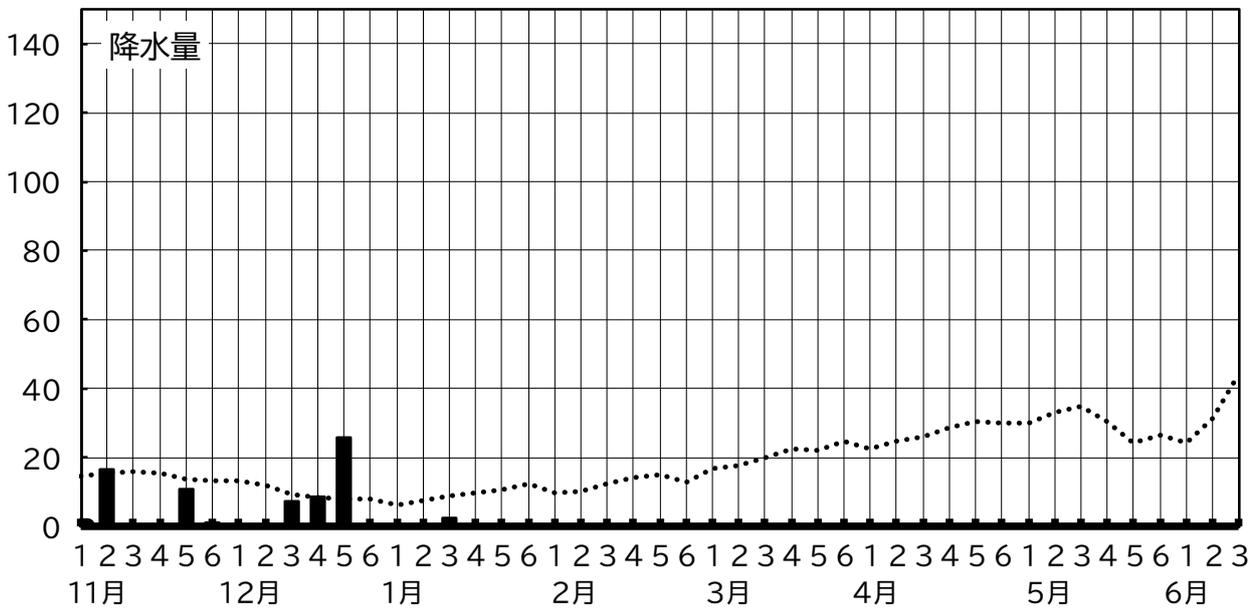
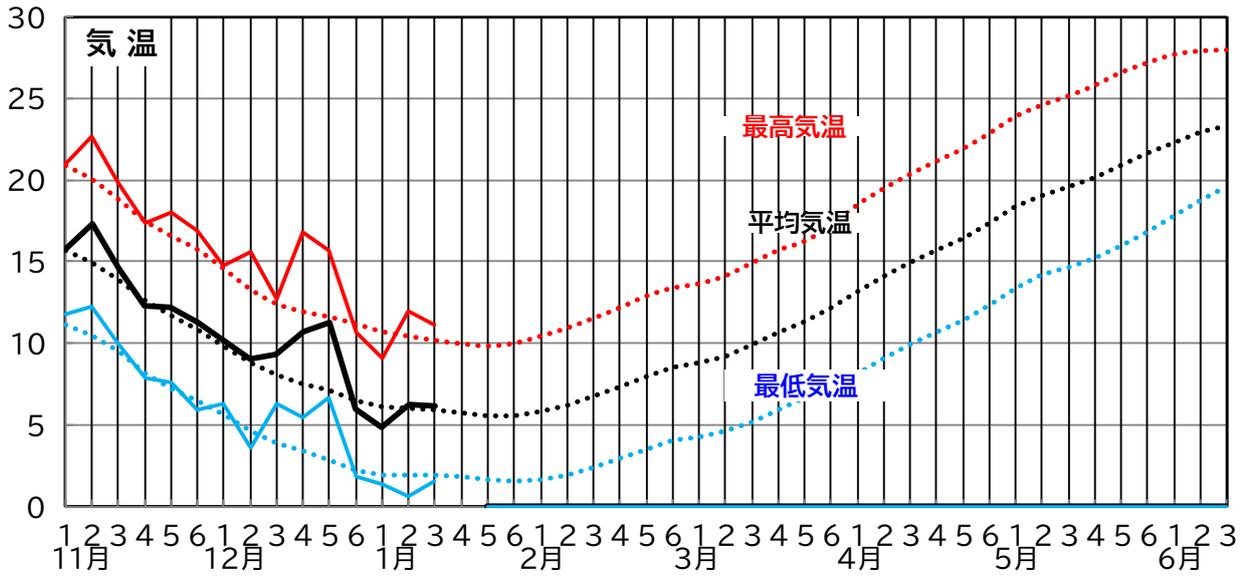




写真1 シロガネコムギ情報田の状況



写真2 さちかおり情報田の状況



写真3. 4 はるか二条情報田の状況



写真5 排水路確保



写真6 カモの食害痕